

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

平和を語り継ぐこと

ヨシュアの在世中はおもとより、ヨシュアの死後も生き永らえて、主がイスラエルに行われた御業をことごとく体験した長老たちの存命中、イスラエルは主に仕えた。

(ヨシュア記24:21)

今月は8月6日の広島原爆の日、9日の長崎原爆の日、そして8月15日は終戦記念日と、例月にも増して戦争の悲劇と平和について思いを向けることになるのではと思います。しかし終戦から77年経ち、戦争体験また被爆体験の記憶がある方は80歳を越えておられるのではないのでしょうか。

忘れ得ない体験

冒頭の聖句に「主がイスラエルに行われた御業」とあります。これはイスラエルの民がエジプトを出た後、40年の荒野の旅を経て約束の地を手に入れるまでの間、神がなされた驚くべき奇蹟のことです。そしてヨシュアと共にそれを実際に体験した人々が生きている間、イスラエルの民は神への信仰から離れなかったということです。

この聖句は恵みの奇蹟ですが、それと全く逆の戦争や被爆という凄惨な悲劇についても、強烈な忘れ得ない体験を直接に味わった人達の存命中は、その人達の影響は民全体、社会全体に及ぶと言えるのではないのでしょうか。戦後77年経ちましたが、その後、日本は戦争をしておらず、また世界においても核兵器による惨劇は起こって

ないということは、まさにその人々の証言、訴え、そして何よりも「祈り」によって、それが守られてきたのではと思うものです。

体験者が去った後

しかし良きにしろ、悪きにしろ、忘れ得ない体験をした人々もやがて世を去って行きます。そしてイスラエルで長老たちが去った後、神の御業を忘れたイスラエルは不信仰を繰り返し、やがて国を失いました。しかしイスラエルは悲劇を繰り返した結果、二度と神の御業を忘れず、子々孫々伝えて行く為にこそ聖書を綴っていったのでした。

そして今、戦争体験、広島また長崎の原爆についても、いずれはその体験を証言できる方は居られなくなる時、尚も戦争や原爆の悲劇を語り継ぎ、平和を訴えていくにはどうするかが課題となって参ります。

平和を語り継ぐこと

大切なのは、例え自分に戦争や被爆の体験がなくても、そうした体験の証言を聞き継いで、またそれを語り継ぐことによって戦争反対、また核兵器廃絶と平和の実現を訴えて行くことでしょう。

今年にはロシアによるウクライナ侵攻が起こり、また核兵器使用も辞さずといった恫喝がなされ、近隣では北朝鮮の核兵器・ミサイル開発が進み、中国の海洋進出による緊張が取り沙汰されています。

こうした時にこそ、過去を顧みながら平和の大切さを語り継ぎ、またそのために祈って参りたいと思います。